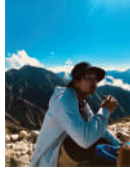


KSGP18181
齋藤 裕
Yutaka Saitou



信州大学大学院
総理工学研究科
工学専攻
建築学分野



ここは「蔵の街」として整備された、長野県須坂市の歴史的観光地である。現在、蔵の街並みを形成しているのはむしろ堺であり、蔵と堺の主従関係は逆転している。そこで堺を伸ばし、蔵や施設を結ぶことで人々の活動や交流を促すきっかけを作り歴史的な景観を守りながら、コミュニティの再編を目指す。

「農蜂による住循環」

中川運河・堀川周辺に住む人々は川を中心に生活し、恩恵を受け豊かな生活を築いていた。しかし、都市のインフラに依存した生活は次第に川から背を向け、汚していった。川と共に生活していた時代を現代に再構築し川を浄化しながら生活し、川によって豊かな生活を作り上げていく集合住宅を提案する。

[愛知県名古屋市中川区 中川運河と堀川を結ぶ松重閘門の周辺]



共同出展者

駒田 浩基 Koki Komada 愛知工業大学 工学部 建築学科 住居デザイン専攻
崎原 利公 Riku Sakihara 愛知工業大学 工学部 建築学科 住居デザイン専攻
杉本 秀斗 Syuto Sugimoto 愛知工業大学 工学部 建築学科 住居デザイン専攻

KSGP18186
岩崎 秋太郎
Syutaro Iwasaki

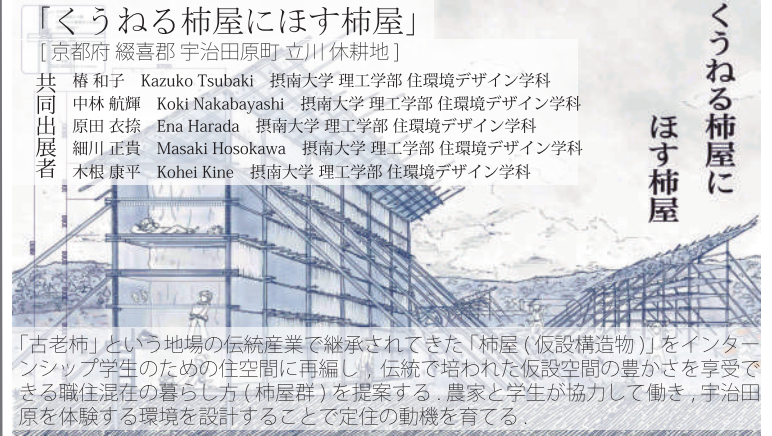


愛知工業大学
工学部
建築学科
住居デザイン専攻

KSGP18182
岡 詩織
Shiori Oka



摂南大学
理工学部
住環境デザイン学科



「くうねる柿屋にほす柿屋」

[京都府 綴喜郡 宇治田原町 立川休耕地]

共同出展者
榎 和子 Kazuko Tsubaki 摂南大学 理工学部 住環境デザイン学科
中林 航輝 Koki Nakabayashi 摂南大学 理工学部 住環境デザイン学科
原田 衣捺 Eina Harada 摂南大学 理工学部 住環境デザイン学科
細川 正貴 Masaki Hosokawa 摂南大学 理工学部 住環境デザイン学科
木根 康平 Kohei Kine 摂南大学 理工学部 住環境デザイン学科

「古老柿」という地場の伝統産業で継承されてきた「柿屋（仮設構造物）」をインターンシップ学生のための住空間に再編し、伝統で培われた仮設空間の豊かさを享受できる職住混在の暮らし方（柿屋群）を提案する。農家と学生が協力して働き、宇治田原を体験する環境を設計することで定住の動機を育てる。

「100SDK ～銭塔の在る懐かしい未来～」 [千葉県 習志野市 大久保]

銭湯と住戸の間に、脱衣所の延長のような場所をつくることで、家と銭湯は淡いグラデーションのような関係で結ばれる。学生や地域住民が気軽に集まれるこの場所は、街のリビングのような空間であり、ここで生まれた賑わいは、塔から溢れる音や湯煙のように街全体に広がっていく。



共同出展者

八橋 夏菜 Kana Yatsuhashi 日本大学大学院 生産工学研究科 建築工学専攻

KSGP18200
外山 純輝
Junki Toyama



日本大学大学院
生産工学研究科
建築工学専攻

KSGP18183
清水 瑠美香
Rumika Shimizu



金沢工業大学
環境・建築学部
建築デザイン学科

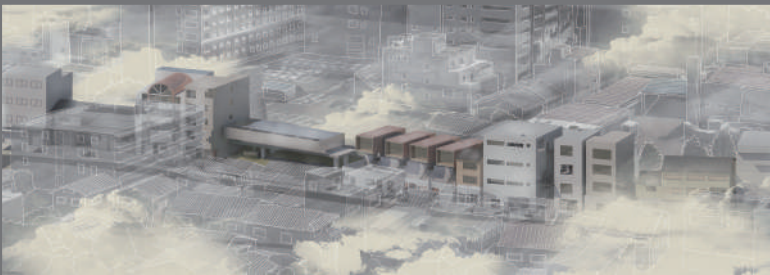
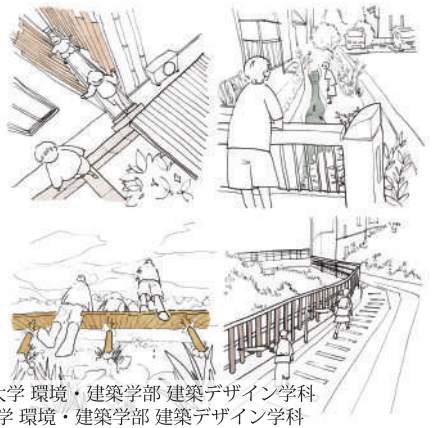
「兼六三十六景」

その町の「らしさ」に気付きのきっかけを与える。町の豊かな環境を顕在化させる気づきの仕組みをつくる。強く知覚機能にまちの「らしさ」を刻むために、感性の形成期である子どもを対象として提案を設える。生活の中で、その気づきを繰り返すことで、感覚で感じる「らしさ」が記憶や感性に蓄積される。

[石川県 金沢市 兼六小学校 校区]

共同出展者

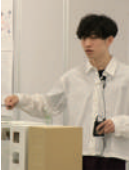
萩原 未輝 Miki Hagiwara 金沢工業大学 環境・建築学部 建築デザイン学科
神谷 航 Wataru Kamiya 金沢工業大学 環境・建築学部 建築デザイン学科



「Document-ary Building」 [石川県 金沢市 せせらぎ通り (外惣構跡)]

事実を伝えるテキストとして、映像作品で事実を語り伝えるドキュメンタリー映画などがあります。歴史を語るテキストとしての存在が弱いスクラップアンドビルド日本建築にも、重層された確かな歴史の事実があり、それを顕在化していく設計手法、並びに街並みのリサーチを行いました。

KSGP18203
伊達 卓也
Takuya Date



金沢工業大学大学院
工学研究科
建築学専攻

KSGP18205
前田 佳乃
Kano Maeda



東京工業大学
環境・社会理工学院
建築学系
建築学コース

「ほどかれる神社」 [東京都 千代田区 外神田]

都市の中に多く存在する神社。現在は、観光地として捉えられがちだが、歴史や年中行事があり、人々のつながりが潜在している。神田明神周辺を、観光客、地域住民、そしてビジネスパーソンを対象とした三つのエリアに分け、それぞれに神社の持つ潜在資源を広げ、神社に「人々が過ごす空間」を提案する。



共同出展者

大岡 彩佳 Ayaka Ooka 東京理科大学大学院 工学研究科 建築学専攻
澤田 悠生 Yusei Sawada 東京理科大学大学院 工学研究科 建築学専攻
田中 彩英子 Saeko Tanaka 東京理科大学大学院 工学研究科 建築学専攻

MEMO

